

光陽の里だより

昨年、収穫した大豆を味噌に加工すべく、糶の手配を石樽さんに頼み、6kgを手配した。塩1、大豆2、糶3の割合で作業をするのだが、春の訪れは早く、今大わらわである。

今までは、大豆をゆであがったら素早く混ぜていたのだが、糶の温度が高すぎて、味噌が駄目になっちゃう、と言われたので今年はやり方を変えてみよう。できあがりをお楽しみに (松井記)

花の村総会開催。

2月21日午前10時から花の村の27年度の総会が開催され、26年度決算・27年度の事業計画が原案通り承認されました。その際「花の村の組織がわかりにくい」「個人会員の位置づけが不明確」等の声がありこれについては早急に対応策を検討することとなりました。

また、総会后、小関栄さんの「二宮尊徳の教え『報徳』とそれを広めた人たち」と柴桂子さんの「江戸期おんな表現者事典」の出版祝賀会を行いました。

(藤本記)

里山倶楽部例会

初のソバの種まきを40cm間隔で筋まきしました。

どうか うまく発芽して下さい。ソバガキ・お蕎麦食べたいですね。今日は春本番のように暖かな一日でした。



結構な広さです。

お昼はお花見をBBQコーナーで取れたての蕨、タケノコ

を天ぷらにして、旬の美味しい味覚に舌鼓を打ちました。



『21世紀の資本』と富国安民

(2面からの続き)

実はこの理論と同じような考え方を、今から一七〇年以上前に示した人物がいます。「富国安民」という考え方を唱えた二宮尊徳翁です。日光神領等の復興を実現する際に、まずは民衆の生活安定(安民)を優先し、生産意欲を高めることにより豊かな国(領地)が実現すると主張

しました。

一世紀以上も前の尊徳翁の考え方とピケティ氏の理論に共通するのは、民主主義的な価値観です。国が危機に瀕した時、それを打開する力は民衆の中にこそあると言います。時代を経ても変わらないところに、何か歴史の法則的なものを感じます。

※「トリクルダウン」理論⇨企業(資産を持つ者)が利益を得れば、その利益は次第に国民に滴(したた)り落ちて行き渡ると主張しています。

(この稿は「北海道報徳情報」誌第379号掲載の「コラム」『天地人語』を、編集発行人である執筆者柴田浩一郎氏の「ご了解を得て」転載したものです。)